



ティー・ロウ・プライス グローバル・クレジット・インパクト投資戦略

インパクト・ステートメント

2023年3月

現在、世界の変化に伴い、社会、政府、規制当局および受託者責任に伴う圧力が環境・社会面での様々な改善を促しています。企業が世界的なこれらの改善圧力に対応し、取り組むための投資を行う中、公債券市場において社会および世界にプラスの影響をもたらす企業への投資機会がかつてないほど広がっています。社会および環境変化の正しい方向にある企業の債券に投資する上で、インパクト投資は極めて重要であると考えています。インパクト投資は、良好なインパクト特性を持ち、かつ追加リターンを獲得が見込める銘柄への選別投資の機会を提供します。

ポートフォリオを通じて、ポジティブなインパクトや改善を達成するための手段は、単に企業への投資を通じてその収益や活動の成果を獲得するという方法以外にも存在すると我々は確信しています。その

他の手段として、企業とのインパクト志向のエンゲージメント、それらに関連した影響のフィードバック・ループ（フィードバックを繰り返すことで、その成果が増幅されること）と並行して、インパクト創出を目指して新たな資金を配分することなどが挙げられます。

当運用戦略の運用プロセスの明確な原則である「**マテリアリティ（重要性）**」と「**メジャラビリティ（測定可能性）**」は、投資家のためのポジティブなインパクトを見極める土台となります。また、債券の運用者として投資を通じ変化を生み出し、エンゲージメントを通じて変化を加速させたいと考えています。世界と国際社会は非常に複雑な問題を抱えているため、インパクトをもたらすには忍耐と変化に対する理解が求められます。したがって、インパクト志向の運用アプローチを採用する上では「**レジリエンシ（強靱性）**」が不可欠です。

インパクト憲章

マテリアリティ （重要性）



企業活動と明確に定義されたインパクトの柱との整合性を投資の基準とし、将来のポジティブな変化を常に追求します。

メジャラビリティ （測定可能性）



意図的に特定のフレームワークを用いてインパクトを計測することで、結果を個別のおよび総合的に定量化します。

アディショナルリティ （追加性）



環境面および社会面でポジティブな成果をグローバル規模で捉えると同時に、インパクト投資を加速させるため、自社の規模とリソースを活用することにコミットします。

レジリエンシ （強靱性）



創造的破壊と極端な結果が生まれる時代において、ポジティブな変化には強靱性が求められます。顧客のために優れた成果を追求する上で、忍耐と協働が鍵を握ります。

インパクトとは
**現状だけでなく、
今後の変化と持続性
も含めた概念である。**
また、**意識的な行動、
確かな実行力および
アディショナルリティ
（追加性）への
コミットメントを
必要とする。**

インパクトの重要性に基づき投資ユニバースを定義

我々の投資は、全てインパクトのマテリアリティ（重要性）を銘柄ごとに評価することから始まります。責任投資チームは、慎重なスクリーニング、環境・社会・ガバナンス（ESG）ファクターに対する深い理解、業界固有かつ将来を見据えた組入れ基準、独自のフレームワークを用いたESGラベル付き債券の信頼性の評価に従って当運用戦略の投資ユニバースを定義します。

重大な損失を回避するための方策：インパクト投資除外リスト

ブルームバーグ・グローバル総合クレジット指数の採用銘柄約3,500銘柄を対象にスクリーニング*を行い、重大なマイナスの影響を及ぼすと見られる分野の銘柄を除外します。また、当社独自の責任投資モデル（RIIM）分析を活用し、特定の問題またはESGリスクの中で個別に考慮すべき分野を見極め、個別企業の活動内容に基づき銘柄を除外します。

ESGの体系的かつ能動的な統合

当運用戦略は、ESGインテグレーション・プロセスを通じて、企業の業務運営に影響を及ぼす環境・社会動向を把握します。ESGファクターを能動的かつ体系的に統合することにより、明確に定義されたポジティブなインパクト・テーマが、全ての銘柄選択決定の基盤となります。我々は、ESGファクターを従来の投資テーマから切り離すことはできないと考えており、ESGファクターを含む企業のファンダメンタルズは、銘柄選択プロセスにおいて重要な役割を果たします。

ESGインテグレーションは、以下の3段階で行われます。

1. ファンダメンタル・リサーチおよび責任投資リサーチに携わるアナリストは、ESGファクターを各自の分析に取り入れます。
2. ティー・ロウ・プライス独自のRIIM分析を定期的に行い、個別銘柄およびポートフォリオ全体のESG特性を把握します。
3. ポートフォリオ・マネジャーは、ESGの分析・評価を投資テーマおよびポートフォリオ構築プロセスに統合します。

ティール・ロウ・プライスのインパクト投資除外リストを構成する現在のカテゴリー



成人向け娯楽

成人向け娯楽が売上高の5%以上を占める企業



営利目的の刑務所

営利目的の刑務所が売上高の5%以上を占める企業



アルコール飲料

アルコールが売上高の5%以上を占める企業



化石燃料

燃料炭の生産が売上高の5%以上を占める企業および世界産業分類基準（GICS）やブルームバーグ業種分類基準（BICS）で石油・ガス産業に含まれる企業



攻撃型兵器

民生用の半自動銃器を製造または販売する企業



賭博

直接行う賭博業務が売上高の5%以上を占める企業



問題兵器

対人地雷、クラスター爆弾、焼夷弾、生物兵器、化学兵器、核兵器を直接取り扱う企業



タバコ

タバコまたはタバコ製品の主要原料を生産する企業



通常兵器

通常兵器の売上高が全体の5%以上を占める企業



不祥事

国連グローバル・コンパクトの原則に照らし、「環境・社会・倫理・ガバナンス」に関して重大な違反に関与し、かつ問題を是正するために適切な措置を講じていないと運用担当者が考える企業または政府機関

* スクリーニングは通常該当企業および関連会社、子会社のみに適用されます。関連会社および子会社への出資比率が50%未満の場合は、通常、スクリーニングの対象外とします。

国連の持続可能な開発目標（SDGs）との整合性を確保

SDGsは、貧困をなくし、地球環境を守り、繁栄を実現することを目的とした、世界的に認められている枠組みです。当運用戦略の投資哲学はこのSDGsに沿っています。これは、ポジティブなインパクトを追求する上で、顧客、運用チーム、投資先企業を網羅するすべてのステークホルダー（利害関係者）の利益を合致させる最善の方法であると考えています。

このアプローチが実質的で実効性があることを確保するために、我々は将来を見据えた視点で変化を捉え、マテリアリティ（重要性）とメジャリティ（測定可能性）の観点から明確に定義されたポジティブなインパクト・テーマに基づき、全ての投資判断を行います。SDGsを指針として、事業活動および以下に掲げる投資に関する3本の柱および8つの小分類との整合性を評価します。

投資対象となる発行体は、インパクト投資に係る4つの組入れ基準のうち少なくとも一つを満たす必要があります。

1. 現在の売上や利益の半分以上が、少なくとも1つのインパクトの小分類に関連する
2. 今後10年の売上や利益の半分以上が、少なくとも1つのインパクトの小分類に関連する
3. 少なくとも1つのインパクトの小分類に関連するプロジェクトに調達資金が配分される
4. 特定の分野で最高水準の問題解決策を提供している

これらのインパクトの柱に照らして、投資を通じてポジティブなインパクトを追求することがすべての投資判断の条件となります。



ESGラベル付き債券の信頼性を評価

グローバル・クレジット・インパクト投資戦略では、ESGラベル付き債券の信用力の評価において、独自のESG債フレームワークを活用することで強固なリサーチを行い、より良い意思決定を進めていきます。ESGラベル付き債券を綿密に評価することによって、グリーンウォッシング債券を回避し、最終的にインパクト効果の高いプロジェクトの特定を目指します。

ESGラベル付き債券の評価プロセス

ファンダメンタル・リサーチや責任投資リサーチのアナリストは、独自のフレームワークを用いて各ESGラベル付き債券を評価します。

ファンダメンタル・リサーチや責任投資リサーチのアナリストは、まず独自の責任投資モデル（RIIM）スコアに基づき、発行体のESG特性を評価するとともに、発行体の環境・社会面の目標およびコミットメントを評価します。

次に、国際資本市場協会（ICMA）が定める基準、セカンド・パーティ・オピニオン、サステナブル・ファイナンスの枠組みを支えるガバナンス体制の評価の観点との整合性を検証します。

さらに、プロジェクトの調達資金の使途および信頼性を分析します。こうした分析は、グリーンウォッシング債券を排除し、最終的にインパクト効果の高いプロジェクトの特定に役立ちます。



評価の最終段階では、資金調達後の報告書を精査し、投資対象のESG債がそのESGラベルに相応しい調達資金の配分を維持しているかを確認します。

各ESG債には、加重平均ベースで算出した総合スコアに基づき、緑、オレンジまたは赤のレーティングが付与されます。

- ・インパクト投資の柱と小分類はティー・ロウ・プライスが独自に分類しています。
- ・SDGsには17の目標が含まれています。追加情報については、<http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>をご覧ください。
- ・表示されている商標は、所有者に帰属します。ティー・ロウ・プライスがこれらの商標の所有者を支持、後援、承認、提携するものではありません

ESGラベル付き債券の評価

独自のフレームワークを用いてESG債の信頼性を評価

 発行体のESG特性 ✓ ティー・ロウ・プライス独自のRIIMSコア ✓ 発行体の環境・社会面の目標、コミットメント	 フレームワーク、基準、検証 ✓ ICMA準拠 ✓ セカンドパーティ・オピニオン ✓ ガバナンス体制	 調達資金の使途 ✓ 調達資金の信頼性 ✓ 調達資金の管理と配分 ✓ リファイナンス ✓ 不適格への対応	 発行後のレポーティング ✓ 調達資金の配分報告 ✓ 監査報告	プロセス ■ アナリストがESG債を評価するための4つの柱と12の小分類を用いて、それぞれの項目に、緑、オレンジ、赤のレーティングを付与 ■ 加重平均した全体スコアを当該ESG債に付与し、投資判断プロセスに統合
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ESG債券モデルは、グリーンウォッシング債券を回避し、インパクトの高いプロジェクトの特定を目指しています。

責任投資モデル（RIIM）は、リサーチ力を高め、より良い意思決定に資するために開発された当社独自のツールです。RIIMは、企業の環境・社会・倫理プロファイルを評価し、リスクの高い企業にフラグを割り当てます。緑は「フラグ無／低」、オレンジは「フラグ中程度」、赤は「フラグ高」を意味します。

メジャラビリティ（測定可能性）

成果の定量化と測定は、インパクト投資家が直面する最も重大な課題の一つです。その理由は、データが過去に実現したインパクトを基盤としているのに加え、一般に認められた測定基準がない中で、変化の進捗を捕捉する必要があるからです。資産運用会社を含めたインパクト投資の専門家ネットワークは、顧客向け報告の透明性を高めるために進化し続けており、統一した用語、フレームワーク、そして原則の策定に取り組んでいます。このようにインパクトの管理と測定に関するベストプラクティスが急速に進化していることを踏まえ、我々は結果の定量化と測定に係るアプローチを絶えず見直しています。

インパクトの精査：ファンダメンタルズとリスクの評価

個別銘柄が生み出すインパクトの精査に、インパクトの5つの視点から評価するフレームワーク*を用います。このフレームワークは、

インパクト評価に携わる2,000以上の機関の実務家が参加するインパクト・マネジメント・プロジェクトが策定したものです。このフレームワークを用いて企業のインパクト創出能力とそれに影響を及ぼす可能性のあるリスクを総合的に評価します。

これら5つの視点は次の通りです。

1. インパクトの目標は何か？
2. その結果の影響を受けるのは誰か？
3. どの程度（規模、変化の度合い、期間）の結果が起きているか？
4. 寄与度 – この変化はいずれにしても起きていた可能性が高いのか？
5. リスク – 想定通りのインパクトが生まれなかった場合、人々や世界にとってどのようなリスクがあるのか？

インパクト測定アプローチ



整合性

インパクト投資の3つの柱と8つの小分類に沿って定量化

堅固で測定可能なインパクト投資ユニバースを創出



ファンダメンタルズ

インパクトの観点からファンダメンタルズを評価

インパクト・マネジメント・プロジェクトの5つの側面を用いて、企業が達成したインパクトの成果に対する理解を深める



成果

結果とインパクトを測定

変化の理論（Theory of Change）を活用、可能な限りインパクトを定量化、外部データの利用



リスク

インパクト・リスクを把握

リスクを認識し、インパクト・テーマの進展や毀損を追跡

インパクト・マネジメント・プロジェクトは、ブリッジ・ファンド・マネジメント・リミテッド（会社番号10401079）（「ブリッジ」）によるプロジェクトです。

*「インパクトの5つの側面」は、インパクト評価に携わる2,000以上の機関の実務家が参加するインパクト・マネジメント・プロジェクトが策定したものです。

このプロセスでは、データの入手可能性に応じて、グローバル・インパクト投資ネットワーク（GIIN）が作成した「IRIS+」指標カタログの指針と指標を利用します。

この分析を通じて、インパクト・テーマを体系化し、外的要因による不利益とリスクを見極め、各銘柄の重要評価指標（KPI）を定義します。

インパクトの精査は、企業に対するエンゲージメントの出発点でもあります。この段階において、運用チームと責任投資チームは、インパクト測定する上で必要な開示情報の不備を特定できる場合があります。

結果とインパクトの測定

年末に作成する年次インパクト評価レポートにおいて、債券の保有状況やインパクトの成果、エンゲージメント、必要に応じて個別の売却事例について顧客に明確に伝えます。可能な限り個別および全体のインパクトを測定し、複雑な状況を単純化し過ぎることなく、透明性を確保するよう目指します。

次回の年次インパクト評価レポートは2023年後半に作成、公開する予定です。インパクト評価においては、問題の要因とそれを解決するための変化、そこから得られる結果を体系化し、変化をつながりとして図に表す「変化の理論」（Theory of Change）モデルを用います。当モデルは、達成された成果の測定を通じて、投資先企業の取り組みがどのようなインパクトをもたらしているのかを評価する明確かつ包括的なフレームワークであると考えています。このフレームワークは、特定の社会・環境面に対して成果を上げるために企業が講じた措置を説明し、時系列で示します。

このアプローチを採用することで、長期的なインパクト目標の達成に向けた企業行動の有効性と進捗について、厳格な基準が確立されます。

企業行動は補完的なものもあれば相反する結果に繋がるものもあり、投資に際してはこれらの複雑性を評価手法に反映させ、また年次レポートにおいてケーススタディを開示していきます。

アディショナリティ（追加性）：エンゲージメントを通じたインパクトの推進

ポートフォリオを通じてポジティブなインパクトを達成するための手段は、単に企業への投資を通じてその業績や活動から得られる収益を捕捉するという方法以外にも存在すると確信しています。その他の手段として、企業とのインパクト志向のエンゲージメント、それらに関連した影響のフィードバック・ループ（フィードバックを繰り返すことで、結果が増幅されること）と並行して、インパクト創出を目指して新たな資金を配分することなどが挙げられます。

ファンダメンタル・リサーチや責任投資リサーチのアナリストおよびガバナンス・チームと協力してインパクトを推進することで、当運用戦略の顧客のみならず、その他の投資家にも利益をもたらす可能性があると考えます。

エンゲージメント・プログラム

エンゲージメントは、インパクト投資の運用者が企業のインパクト目標達成に向けた進捗を追跡し、必要に応じて持続可能な

ベストプラクティスに関する指針を提供するための重要なツールです。エンゲージメントでは個別企業に焦点を当てます。広範なテーマを特定し、複数の企業に対して同じ問題に関するエンゲージメントを行うことは通常ありません。我々はリサーチを通じて、個別銘柄のパフォーマンスを妨げる可能性がある要因を特定し、企業に対して具体的な変化を提案したり、十分な情報に基づいて投資判断をするために、ESGの問題に関する追加情報を求める場合があります。ファンダメンタル分析を土台とするアクティブ運用を行うという当社の基本的な運用アプローチに沿い、個別企業に焦点を当てた手法を取ることで、インパクトを最大化できると考えています。

顧客から信頼をいただき多額の資金を投資している当社は、多くの世界トップクラスの企業の大口投資家となっています。そのため、多くのケースにおいて企業の経営陣との面談が可能となり、エンゲージメントと分析の双方において非常に有益です。例えば、

- a. 事業のプラス面を推進することが見込めると同時に
- b. 事業運営で避けられない外的要因による不利益を軽減させることに役立ちます

我々が担う追加的な役割として、企業によるインパクトの評価・測定の支援を通じて、情報開示の向上を目指すことが挙げられます。

我々はまた、投資先企業の経営陣との定期的な対話を通じてエンゲージメントの成果を測定します。エンゲージメント・プログラムは運用部門が主導し、独自のRIIM分析、ガバナンス・スクリーニングおよびアナリストのファンダメンタル・リサーチを活用し、エンゲージメント対象企業を特定します。企業の経営陣は、アクティブ運用者である我々が保有債券を売却する選択肢を有することを認識しています。このように、運用部門が主導するエンゲージメント・アプローチは、有意な結果を生み出す可能性があります。

エンゲージメントの目的は、影響力を行使して企業が他社より良好な業績を達成する確率を高め、顧客の投資目標達成を支援することです。そのために、次に掲げる様々なスチュワードシップ活動を行っています。

- 定期的かつ継続的な投資先の精査
- ESGの問題に関する経営陣とのエンゲージメント
- 率直なフィードバックの提供を含む経営陣との面談
- 取締役会メンバーとの面談
- 保有比率の増減の判断
- 新規投資または売却の判断
- 稀なケースとして、経営陣の支援、または企業の長期的な最善の利益を目的に、経営陣が方針を変更するよう促すための企業に関する公式声明の実行

現在、一部のエンゲージメント活動を四半期エンゲージメント・レポートで公表しており、当戦略に関連するすべてのエンゲージメント活動を年1回のアニュアル・インパクト・レポートにまとめる予定です。

知識の共有

インパクト投資の運用者として、我々はインパクト投資の行動規範を推進し、充実させる責務を負うと考えています。その中で、ティール・ロウ・ブライスの規模とリソースを活用することで、社内でのアディショナリティ（追加性）を追求し、インパクト・アジェンダの推進を目指しています。

特定の問題に関するリソースと知見を結集することで、顧客とも知識を共有することができると期待しています。インパクト投資はまだ発展の初期段階にありますが、各種レポートの提供や開かれたコミュニケーションを通じて、インパクト投資の課題を世界中の顧客と共に進めていく所存です。アディショナリティ（追加性）の実現に向けた取り組みによりこの分野での発展を継続していきます。

レジリエンシ（強靱性）

環境面の持続可能性を追求するのにレジリエンシ（強靱性）やコミットメント、想像力が繰り返し求められるのと同様に、インパクト投資にもこのような要素が求められます。綿密な分析や長期的な視点を投資判断の中核に据え、長期にわたりインパクトとアルファの両面で目標を達成するためにアイデアをフル活用し、顧客の良きパートナーとなることを目指します。

厚みのあるリサーチ力に基づく将来を見据えたアプローチ

インパクト達成への道は複雑で平坦ではなく、忍耐を必要とすることから、サステナビリティの課題を解決するために投資を行う際には、長期的かつ総合的な見方が必要となります。先見性は、変化の激しい世界において、インパクト投資が過去実績に基づくインデックス投資と差別化できる重要な要素であり、インパクト投資の成功および長期的な付加価値創出にとって不可欠な側面です。

銘柄に関する視点を統合し、十分に認識されていないと判断されるプラスのインパクトと、価格に適正に織り込まれていないと思われる経済的利益の改善の双方を、真にグローバルな観点から個別銘柄毎に見極めます。銘柄選択においては、将来の変化を見据え、独自の調査に基づき高い確信度を有する企業を発掘します。当運用戦略は、変化し続ける世界におけるあらゆるインパクト投資の機会を幅広く捉えることを目指しており、ポートフォリオの慎重なリスク管理のみならず、国連開発目標であるSDGsを達成する観点からも、将来性を重視した銘柄選択アプローチを採ることが重要と考えます。

グリーンボンドに限定されない投資対象

債券のインパクト投資は、ESGラベル付き債券市場に限定されません。インパクトは、日々の活動を通じて環境・社会面でポジティブなインパクトをもたらしている発行体に資金を直接配分することで捉えることができます。

そのため、投資プロセスはグリーンボンドに限定されず、社債やクレジット債の投資対象全般にわたり幅広い投資機会を検討し、インパクトが最大化できる発行体を特定します。ESGラベル付き債券市場以外の企業へのエンゲージメントおよび投資により、規模とリソースを活用して発行体のインパクト課題の達成に資することができます。

例として、非営利目的の小児病院や、投資・融資活動を通じて本質的に社会的使命を果たす開発銀行などが挙げられます。

リサーチ、測定、報告、反復

インパクト投資がリスクと機会が混在する複雑な世界に存在していることが、この業界の課題となっています。我々はインパクトを精査する際に考慮する要素を体系化し、インパクト・テーマを導き出し、外的要因による不利益とリスクを見極め、重要評価指標（KPI）を定義します。年次のインパクト評価レポートでは、これらのKPIの変化を追跡することで捉えられる企業のインパクト投資目標達成に向けた進捗を報告する方針です。

また、顧客に信頼されるパートナーとして、インパクトの測定と報告におけるイノベーションを促進し、インパクトに係るデータとその信頼性の確立に取り組むことを目指します。当社リサーチの専門知識の様々な側面（ESG分析とファンダメンタルズ分析の双方）を活用しつつ、責任投資やインパクトに関する報告の充実に注力することが、長期的に我々の大きな強みになると考えています。

インパクト投資の運用者として、アディショナリティ（追加性）を発揮して、サステナビリティを追求する企業との率直なエンゲージメントを徹底する必要があると考えています。投資家としての立場を活用して企業との対話を行い、事業のプラス面を推進させ、外的要因による不利益を軽減できるよう努めます。

こうした取り組みを通じて、グローバルなリサーチ体制と規模を活用し、投資リターンの達成と将来世代のためのインパクト創出という当運用戦略の2つの運用目標の両立を追求していく所存です。変化には時間がかかることから、粘り強さが求められます。これは多くの点において長期投資で成功するための要件と共通しています。

INVEST WITH CONFIDENCE®

ティー・ロウ・プライスは、お客様に信頼していただける優れた運用商品とサービスを長期にわたってご提供することに注力しています。

troweprice.co.jp

T.RowePrice®

以下のリスクは当運用戦略に関連する重要なリスクです。

- ABS及びMBSリスク** 資産担保証券（ABS）や住宅ローン担保証券（MBS）は他の債券よりも、流動性リスク、信用リスク、債務不履行リスク、金利リスクが高い場合があります。多くの場合、繰上償還延期リスクおよび繰上償還リスクがあります。
- 偶発転換社債リスク** 偶発転換社債には、とりわけ資本構成の反転、トリガー・イベント、利払い停止、繰上償還延期、イールド/バリュエーション、株式への転換、元本削減、業種の集中及び流動性に関連する追加のリスクがあります。
- ディストレスト債およびデフォルト債リスク** ディストレスト債やデフォルト債は、回収、流動性、評価に関連するリスクがかなり高くなる場合があります。
- クレジット・リスク** 債券または短期金融商品は、発行体の財務健全性が悪化すれば価値を失う可能性があります。
- デフォルト・リスク** 債券の発行体が債券を償還できない場合や、発行体にその意思がない場合があります。
- デリバティブ・リスク** デリバティブはレバレッジを作り出すために用いられ、ボラティリティが高くなったり、デリバティブ費用を大きく上回る損失が生じたりする場合があります。
- エマージング市場リスク** エマージング市場は先進国市場ほど確立されていないため、リスクが高くなります。
- ハイイールド債リスク** ハイイールド債は一般的に、発行体の債務再編リスクやデフォルト・リスク、流動性リスク、市場環境への感応度が高くなります。
- 金利リスク** 予想せぬ金利変動により、投資債券に損失が生じる場合があります。
- 流動性リスク** 希望する時間及び公正価格での証券の評価や取引が困難になる場合があります。

一般的なポートフォリオのリスク

- キャピタル・リスク** 投資金額は変動し、元本は保証されません。ポートフォリオの基準通貨と申し込み通貨が異なる場合、投資金額は為替レートの変動による影響を受けます。
- カウンターパーティ・リスク** 相手方企業にポートフォリオに対する義務を履行する意思がない、または履行できない場合にリスクとして顕在化する場合があります。
- ESG及びサステナビリティ・リスク** ファンドの投資価値や運用実績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。
- 地理的集中リスク** ポートフォリオが特定の地域にその資産の大部分を投資する場合、そのパフォーマンスはその地域で生じる事象の影響をより大きく受けることになります。
- ヘッジ・リスク** ヘッジを通して特定のリスクを軽減または排除しようとする試みが、意図したとおりに機能しない場合があります。
- 投資ポートフォリオ・リスク** ポートフォリオに投資する場合は、市場に直接投資する場合とは異なる特定のリスクが生じます。
- 運用リスク** 運用会社または運用会社が指名する者にとって、あるポートフォリオに対する義務と他の運用ポートフォリオに対する義務とが時として相反する場合があります（ただし、このような場合はすべてのポートフォリオが公正に取り扱われます）。市場に関する様々な要素の予想せぬ変更により、ポートフォリオが損失を被る場合があります。
- 市場リスク** オペレーション上の過誤によって、ポートフォリオのバリュエーション、運用報告、取引執行などに影響が及んだり、金銭的損失が生じる可能性があります。
- オペレーショナル・リスク**

重要情報

当資料は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよびその関係会社が情報提供等の目的で作成したものを、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が翻訳したものであり、特定の運用商品を勧誘するものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料はティー・ロウ・プライスの書面による同意のない限り他に転載することはできません。

資料内に記載されている個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンド等における保有・非保有および将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。投資一任契約は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。

当社の運用戦略では時価資産残高に対し、一定の金額までを区切りとして最高1.265%（消費税10%込み）の逡減的報酬料率を適用いたします。また、運用報酬の他に、組入有価証券の売買委託手数料等の費用も発生しますが、運用内容等によって変動しますので、事前に上限額または合計額を表示できません。詳しくは契約締結前交付書面をご覧ください。

「T. ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標または登録商標です。

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者関東財務局長（金商）第3043号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会/一般社団法人 投資信託協会